



日本自転車振興会補助事業 平成18年度事業概要

(3) 超電導産業に関する国際連携推進事業(国際超電導産業サミット)

「第15回国際超電導産業サミット(ISIS-15)」が平成18年9月28日から29日の2日間、日米欧3機関の共催によりドイツ・エルランゲン市で開催された。日欧米等から超電導関連機関・企業の経営・技術トップなど約40名参加のもと、「高温超電導20年 - これまでの成果と今後について」をテーマとし、日米欧の超電導開発における主な成果と将来の事業化に向けた重要課題及び各国政府がこの未来技術を支援する必要性について議論された。

米国では現在、DOE(米国エネルギー省)のSPI(Superconductivity Partnership Initiative)のもとOhio州Columbus、New York州Albany、同州Long Islandで超電導ケーブル実証プログラムが進行中である。欧州においても、モータ応用などその実用化に向けた努力が行われている。今回の会議には中国、韓国から参加もあった。中国では、「国家中長期科学技術発展計画」の中に超電導が重要技術の1つとして位置づけられており、韓国では、科学技術省の下にCAST(Center for Applied Superconductivity Technology)を設立、電力応用からエレクトロニクスまで幅広い分野で実用化を目指した超電導の研究開発を進めている。

さらに、今回、韓国から、今後、正式メンバーとして参加したいとの意思表示があり、国際超電導産業サミット拡大の動きもみられ、サミットの国際的な評価も高まってきている。

これらの結果は「ISIS-15 会議資料集」にまとめ、国内外の関係機関、企業等に配布した。また、電子情報誌「超電導 Web21」にも特集号として掲載し、広く関係者に情報提供した。



ISIS-15 会議風景